



めじかじ通信

航海一ツ

めじかじ市民記者ネットワーク

市民記者の目から見た「こもろ」を発信していくページです。ちょっとへんてこりんな名前「めじかじ」。意味は「め＝目」と「じ＝耳」を使って、発見への「かじ＝舵」をとろう。どうぞ期待！
またガッツのある取材記者を募集します。

▼問い合わせ先 企画課 市民協働推進係



一人でコツコツやるのが好きだ、と話す甘利渉さんは新卒で入社した会社を間もなく辞めて調理学校で学んだ。自分の店を持って17年になる。店名は大好きなビートルズと村上春樹の、作品名から取った。今はハンバーグとスパゲッティをメインにしていて、予約に応じて創作料理を披露している。店内に家族が作った手工芸品や開店祝いに贈られたガラス絵などに囲まれた、一枚の銀メダルの賞状がある。調理学校では惜しくも首席卒業を逃したのだ。次には甘利さんの、今回次席だった文学のお話。

料理と童話を創作

洋食工房ノルウェイの森店主

甘利 渉さん(46歳) 〓 柏木 〓

一人ですべて探検して歩いた幼児期読書を強要されて嫌いになった少年期があつて、高校の教科書で夏目漱石の『こころ』に出会った。大学の国文科在籍中は漱石、太宰治、村上春樹を次々と読破していった。学生作家として文壇デビューを目指したが、長編小説一編を文芸賞に応募後いったん力尽きた。
甘利さんはブログに自作の詩を載せていたが「詩では伝えない」と童話を書き始めて4年ほどになる。店の準備時間の合間に、毎月一作を目標に書き続けて50作。およそ40作目の『夕焼け色の自転車』が株式会社アンデルセン(本社広島)パシフィック文化研究所が主催する「アンデルセンのメルヘン大賞」の2015年優秀賞に選ばれ、絵本ができた。

こがね色のハチミツを 山のてっぺんからとろりとかけたように 木の葉がゆっくりと色付き始め この山のふもとにも深い秋がやってきました。

こうして始まる『夕焼け色の自転車』を「夕焼けが好きだ」という選考委員長の立原えりか(童話作家)さんが「情景がよく描けていて、なつかしさを感じた」とほめてくれた。甘利さ



『夕焼け色の自転車』ラストシーン。つるりん先生は子ぎつねを自転車に乗せて送っていく。

んは季節感を出そうと童謡『紅葉(もみじ)』を「頭の中で鳴らしながら」書いただけに、うれしかった。この作品を選び、挿絵を描いてくれた選考委員の松原健治(イラストレーター)さんには「文章が美しく、始終ほのぼのとした空気につつまれたお話。次回は大賞をめざして創作に励んでほしい」と言われている。受賞者の言葉として甘利さんは「子ども達はおおらかな心を持ち、大人達は思いやりの心を思い出してほしいと願いを込めて書いた。これからも夢や希望や思いやりをテーマに書き続けたい」と述べている。

ちなみに、デンマークのハンス・クリスチャン・アンデルセン文学賞の選考委員会は昨年11月、2016年の同賞を作家の村上春樹氏に授与すると発表している。

(取材・文 佐藤 万千子)

ゆらさんの四季の薬膳 新年に鮭を見直す

新年に食べる魚はブリ？それとも鮭？北陸から関西方面はブリ派、東日本は鮭派が一般的なお正月風景。信州はもちろん鮭文化圏。一昔前までお歳暮に新巻鮭を贈る習慣もありましたが、最近はいくらか減りました。とはいえ、佐久地方の鮭粕料理は今に伝えられ、長寿に一役買っているとの見方もあります。

白身の魚が多い中で、鮭の身はなぜ紅色をしているか知っていますか。アスタキサンチンと呼ばれる色素のせいですが、鮭や鱒の筋肉に含まれています。このカロテノイド色素には抗酸化作用があり、特にアスタキサンチンには活性酸素の害を防ぐ力が強いのです。つまり老化防止に役立つと。

薬膳でも鮭は貧血や肌荒れ、胃腸の弱い人に効果的で、他に血栓予防の効能があるとされています。気と血の両方を補ってからだ中に巡らせる力を持った鮭って、スゴイと思いませんか？お正月、ぜひ鮭を見直す機会にしてください。

(国際中医薬膳師 小清水由良)

